

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	実践臨床画像論(Practical Clinical Imaging)		
ナンバリングコード	S30235	大分類 / 難易度 科目分野	保健医療学科 / 応用レベル / 診療放射線学
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 前期
必修・選択区分	コース必修:診療放射線学コース 選択:臨床検査学コース、臨床医工学コース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	S005601	クラス名	-
担当教員名	衛藤 路弘、村中 博幸、野口 敦司、青山 良介、相川 久幸、原田 義富、東 敏也、野村 達夫		
履修上の注意、 履修条件	グループによる演習形式をとる。 遅刻・欠席をしないこと。(欠席による補講不可) 診療放射線学コースの学生は必ず履修すること。		
教科書	若葉マークの画像解剖学 第3版(監修:松村明、阿武泉 編集:磯部智範、メジカルビュー社、2019)		
参考文献及び指定図書	読影の基礎 第4版(読影の基礎 編集委員会、共立出版、2017)		
関連科目	放射線撮影学1、放射線撮影学2、臨床実習(診療参加型)		

○基本情報		
授業の目的	医療現場での基本的な原理と画像の成り立ちを修得する。 1.チーム医療と多職種連携を理解し、チームの一員としての対応力を身に付ける。 2.医療情報の活用方法と取扱いにおける注意点を修得する。 3.静脈路の確保やカテーテルの挿入等についての実践的技術を修得する。 4.放射線防護および感染防護について学修し、臨床現場での対応力を身に付ける。	
授業の概要	医療現場における放射線機器等の取扱い、患者への対応及び検査に関わる説明、チーム医療及び他職種との連携、医療情報の取扱いについて実践的に学修する。また、静脈路の確保、抜針及び止血の手技、肛門へのカテーテル挿入からの造影剤及び空気注入の手技ができる能力を身に付ける。併せて、放射線防護、安全管理について実践的に学修し、病院等で臨床実習を行うのにふさわしい技能や医療者としての態度を身に付ける。 (村中博幸、衛藤路弘、青山良介)静脈路の確保、造影剤の副作用対策、下部消化管へのカテーテル挿入、上部消化管へのカテーテル挿入、総復習(北村茂三、相川久幸、野村達八)医療接遇、感染予防対策、動脈路からの造影剤注入、動脈路の感染対策と安全管理(野口敦司、東敏也、原田義富)チーム医療、医療情報、被ばく線量の最適化、緊急時の対応、RIの注入方法、RIの副作用	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「グループワーク」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	臨床経験(病院での実務経験)のある医師・診療放射線技師が担当する。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー1】				
【ディプロマ・ポリシー2】	幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。	25点		25点
【ディプロマ・ポリシー3】	医療の実態を理解したうえで、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を身に付けている。	25点		25点
【ディプロマ・ポリシー4】				

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
実践臨床画像論で学んだ内容について、各グループでプレゼンテーションソフトを活用した発表を行い、それをもとに成績評価(50点満点)を行います。各グループの発表時間は7分、質疑応答の時間は3分とします。また、期末試験(50点満点)を加えた総合評価で最終成績を決定します。

[illegible]

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	実践臨床画像論 (Practical Clinical Imaging) 衛藤 路弘、村中 博幸、野口 敦司、青山 良介、相川 久幸、原田 義富、東 敏也、	授業コード	S005601
学修内容				
1. チーム医療と多職種連携				
チーム医療と多職種連携における診療放射線技師の役割を学修し、多職種協働・地域連携・各職能団体の役割および連携のあり方について学修する。				
予習	チーム医療と多職種連携の基本概念の理解と役割について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
2. 医療情報の活用方法				
患者から収集された傷病や治療のために処方された薬剤、検査結果などの医療情報を効率的かつ効果的に活用する方法や管理体制について学修する。				
予習	医療情報の活用方法と取扱いについて予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
3. 医療接遇の理解と手法				
患者さんや患者家族および他の医療従事者への接し方について学修する。また、画像検査や治療を実施する際の検査説明方法および注意事項について学修する。				
予習	医療接遇の理解と手法について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
4. 感染症対策について				
診療放射線業務において自分自身が感染しないよう、そして院内感染の媒体とならないように感染予防対策（知識・技術・環境整備）について学修する。				
予習	診療放射線分野における感染症対策について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
5. 放射線防護について				
診療放射線業務を安全かつ円滑に実施できるように、放射線診療における被ばく線量の低減や最適化の方法について学修する。				
予習	診療放射線業務における放射線防護について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
6. 緊急時の対応について				
放射線診療における緊急時の対応について学修する。（放射線診療中の意識喪失に対する対応、自然災害に対する対応（地震・水害・落雷等）など）				
予習	診療放射線業務における緊急時の対応について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
7. 静脈路確保の手技				
静脈路の血管確保についての手技および抜針・止血方法を修得する。また、穿刺手技由来の有害事象について学修する。				
予習	造影剤注入時の静脈路確保の手技について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
8. 副作用の対応について				
各種造影検査に用いられる造影剤の薬理作用と副作用発生時の対応について学修する（造影X線検査、造影CT検査、造影MRI検査、造影超音波検査）。				
予習	造影剤の薬理作用と副作用の対応について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間

○授業計画	科 目 名	実践臨床画像論 (Practical Clinical Imaging)	授業コード	S005601
	担当教員	衛藤 路弘、村中 博幸、野口 敦司、青山 良介、相川 久幸、原田 義富、東 敏也、		
学修内容				
9. RI検査医薬品の注入手技				
RI検査医薬品注入に関連した医療安全管理と事故対策および副作用が発生した際の対応について学修する。				
予習	RI検査医薬品注入の手技および使用器具について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
10. RI検査医薬品の薬理作用と副作用の対応				
RI検査医薬品注入に関連した医療安全管理と事故対策および副作用が発生した際の対応について学修する。				
予習	RI検査医薬品の薬理作用と副作用の対応について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
11. 造影剤注入装置の動脈路への接続および操作				
動脈路からの造影剤注入のための造影剤注入装置の原理・構造・使用方法について学修する。また、動脈路に接続する行為の一連の業務の流れと手技を修得する。				
予習	造影剤注入装置の動脈路への接続および操作について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
12. 動脈注入時における感染管理と安全管理				
造影剤注入装置を用いた動脈路からの造影剤注入に関連した合併症、感染管理および医療安全対策について学修する。また、副作用に対応した一次救命処置法を修得する。				
予習	動脈路からの造影剤注入時における感染管理と安全管理について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
13. 下部消化管検査の手技について				
下部消化管に関する解剖と下部消化管造影検査における感染管理および医療安全対策について学修する。また、下部消化管へのカテーテルの挿入と造影剤の注入および空気の注入と吸引をする手技を修得する。				
予習	下部消化管検査(大腸二重造影法:注腸)の手技について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
14. 上部消化管検査の手技について				
上部消化管に関する解剖と上部消化管造影検査における感染管理および医療安全対策について学修する。また、鼻腔カテーテルの取扱い方法と造影剤の注入および空気を注入する手技を修得する。				
予習	上部消化管検査の手技について予習する。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
15. 総復習				
これまでの演習内容のまとめとして、十分な理解ができていないところについて再度解説する。(第1回から第14回までの総復習)				
予習	理解不足な内容や知識を深めたい内容をまとめておく。			2時間
復習	演習内容をノートにまとめる。			2時間
16. 発表				
予習				
復習				